

令和5年度 第1回富士見町総合教育会議 次第

日 時：令和6年3月13日(水)午前11時00分～

場 所：202会議室

出席者：町長 名取重治 教育長 矢島俊樹

教育委員 小林俊一 吉川満美 北原八重子 名取美好

子ども課長(金井真由美) 生涯学習課長(小林直志)

井戸尻考古館・歴史民俗資料館館長(小松隆史)

生涯学習課スポーツ係長(北原稔)

総務学校教育係長(名取淳二)

子ども・相談家庭相談係(伊藤恵子) 記録者(小池桂子)

進行：子ども課長

1. 開 会

2. 確認事項

富士見町総合教育会議設置要綱について

富士見町総合教育会議の公開について

3. 協 議

(1) 新井戸尻考古館と観光について (生涯学習課 文化財係 小松館長)

○富士見町の「まちづくり」の位置づけ

- ・文化財の保護、調査・研究、普及と活用促進・観光資源として活用
歴史文化交流拠点、景観整備、改築

○施設計画方針

- ・埋蔵文化材センター機能を有する施設
- ・考古地域博物館の役割を果たす施設
- ・学習・発信施設。言い換えれば“社会教育の拠点”であり町の観光資源となりうる施設

○活動計画

- ・町民の参画、地域の誇り、町全体で井戸尻文化や歴史遺産の保存・活用の機運を醸造していく。

○教育と観光

- ・文化財保護法が改定され、保護から活用へと移行してきている。地域の活性化に繋げていく。文化遺産がなくならないように大勢の人に楽しんでもらい好きになってもらう。遺産を守る人 担い手を育てていく。→観光
- ・教育面は、何を伝えなければいけないのか。私たちは、どう生きていったらいいのか、縄文の知恵を学ぶ。知識から学ぶ知恵に変わってきている。

〈小林委員〉新しい考古館の名称について、「新井戸尻考古館」に井戸尻の井戸尻らしさを追求していこうという思いが見えてうれしく思っている。

もうすぐ来場者が年間 10,000 人に達する。じわじわと人気が出ていることを

感じる。いろいろな努力に積み重ねを感じる。余計「新考古館」への期待が高まってきている。その反面、信濃境駅の活性化も考えていく。

小学生の文化活動にもつながっていくのでは。

〈町長〉「新井戸尻考古館」については、地域の活性化、町の観光化に向け目標を持った取り組み。町の第3の観光拠点としていきたい。皆さんのご協力をお願いしたい。

(2) 中学校部活動地域移行について

・富士見町の現状：富士見中学には12部活ある、その他個人では5部活計17部活になる。12月教員、外部指導者にアンケート調査をしたところ、結果は指導にやりがいを感じる60%、指導に負担を感じる60%。長時間労働となっていることが背景にある。今後、生徒数が減少していくと、メンバーが揃わず試合にならない部活も出てくる。少子化の中、持続可能な体制にする必要がある。

指導者の量と質の確保の面から、指導員の報酬、旅費等を支援していく。

・富士見町単独で取り組むより、自治体を越えた地域連携により持続可能な部活動の地域移行を進めていきたい。現在、原村との連携をするべく、協議会の立ち上げ準備を行っている。

○原村と連携を取ってやっていくことの是非について

〈北原委員〉良いのではないか

〈名取委員〉理想ではないか。指導員に関しては今後検討必要なのでは

〈吉川委員〉子どもたちが活動できるよう進んでいければ

〈小林委員〉原村との連携を基本とする。部活によってはもっと広域に考えていかなければならないケースも出てくるのでは…。

〈町長〉規程の方向で進んでいってもらいたい。

〈教育長〉安心して部活動ができるようすすめていく。

(3) 不登校児童・生徒の登校への支援について（非公開）

(4) その他

4. 閉 会

12時5分終了